

平成29年度 自己評価計画書 (中間)

石川県立宝達高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	中間評価	
1	生徒の進路志望100%実現を目指すために、3年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する。 ・学習規律の遵守と家庭学習の確立を組織的に指導する。 ・効果的な学び直しの取り組みを行い、基礎学力の定着を図りながら、生徒の学ぶ意欲を喚起する。 ・ICTの活用やアクティブ・ラーニングの充実など、学習指導方法の改善を進め、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。	①	各教科 教務課	朝学習で基本事項の学習を行い、授業でも学び直しの内容を積極的に取り入れて指導している。	【努力指標】 学び直し教材の効果的な活用を図っている教員の割合が100%になる。	学び直しのための教材を作成し、活用した教員の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	教職員調査(7月) 肯定的評価 A(42.9)+B(57.1) =100.0% 達成度：A	昨年度同時期の肯定的評価は85.8%であることを踏まえると、努力指標が達成されているが年間を通してこの努力指標が維持されるよう継続して取り組みたい。
		②	各教科 教務課	各階に移動型のプロジェクターを備え ICT 機器の利便性を図っている。活動時間も記録することにより意識的に利用して授業を行う教員が増えている。	【努力指標】 ICT 機器の効果的な活用を図る。	職員が ICT 機器を年間に活用した回数が一人平均で A：70回 以上 B：60回 以上 C：50回 以上 D：50回 未満 ICTの活用により、学習意欲が高まったと感じている生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	教職員調査(7月) 21名で931回使用 平均44.3回 達成度：D 生徒調査(7月) A(31.8)+B(40.1)= 71.9% 達成度：A	昨年度同時期には平均29.7回であったことと比べると使用回数が増えている。年度末にはA評価になると思われる。ただ、個々の使用状況には大きなばらつきがあるので、少ない人には促す必要がある。 生徒も ICT 授業での理解が高まったという評価が授業評価でも得られている。
		③	各教科 教務課	挨拶や学習規律の指導に努めている。更にAL型授業のルールを利用して学習規律の確立に努める必要がある。	【成果指標】 学習規律を守っている生徒の割合が100%になる	学習規律を守っている生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	教職員調査(7月) A(47.6)+B(52.4)= 100.0% 達成度：A 生徒調査(7月) A(49.0)+B(36.9)= 85.9% 達成度：B	教員は、生徒に学習規律をさせている自覚があるが、生徒自身にはそこまでの意識がない。ただ、昨年同様はC評価だったので今後も学習規律の意識を高めるよう継続して取り組む。
		④	各教科 教務課	AL型授業の共通ルールの導入でAL型の授業を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る必要がある。	【努力指標】 生徒に発表等の主体的に活動する機会を与えている。	アクティブ・ラーニング型の授業を取り入れている教員の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	教職員調査(7月) A(23.8)+B(71.4)= 95.2% 達成度：A	昨年同様と同じポイントであるが、より積極的に取り入れている割合が高くなっている。生徒の授業評価でもAL型授業での理解が高まったとする割合が昨年より5ポイント高い。

重点目標		具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	中間評価	
1	生徒の進路志望100%実現を目指すために、3年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する。 ・学習規律の遵守と家庭学習の確立を組織的に指導する。 ・効果的な学び直しの取り組みを行い、基礎学力の定着を図りながら、生徒の学ぶ意欲を喚起する。 ・ICTの活用やアクティブ・ラーニングの充実など、学習指導方法の改善を進め、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。	⑤	全校で取り組んでいる家庭学習教材の点検や授業で使用する課題プリント、週末課題等を生徒に提供し、計画的に学習に取り組ませる。	各教科 教務課 各学年	昨年度は平日 60 分以上 55.5%、休日 120 分以上 28.3%であり、年々増加傾向にある。しかし、個々の生徒の進路実現には不十分な現状であり、組織的な取組を継続する。	【成果指標】 平日 60 分以上、 休日 120 分以上の学習時間を確保している。	家庭学習時間が平日 60 分以上、 休日 120 分以上の生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	生徒調査（7月） 平日 60 分以上 H29 40.9% H28 54.8% 休日 120 分以上 H29 23.2% H28 29.8% 平日 達成度：D 休日 達成度：D	昨年同期と比較して家庭学習の時間が随分少なくなっている。特に2，3年生の時間が少ない（1年生は多くなっている）。家庭での学習が進路実現に大きくつながることを理解させ、粘り強く指導していく必要がある。
		⑥	上級学校理解・職業理解などを通じて、生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導し、目標とする進路実現のために学習に主体的に取り組むよう働きかける。	進路指導課 各学年	進路実現のために、基礎学力の底上げに継続的に取り組み、進路ガイダンス等進路実現に向けた行事を実施し、生徒の進路意識を高める取り組みを学年段階に応じて適切に行う必要がある。	【満足度指標】 各学年のキャリア学習が、上級学校理解・職業理解などを通じて生徒の進路選択に役立っている。	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っているとする生徒の割合が A：85% 以上 B：75% 以上 C：65% 以上 D：65% 未満	生徒調査 （7月実施） A(40.8)+B(40.8) =81.6% 達成度：B	前年度同時期は78.5%であり、漸次増加している。後期に向けても、以下の点に留意して実施を継続していく。①生徒の資質の伸張を期した3年計画、②校内・校外行事のバランス、③講義形式・参加型等の多様な形式である。
		⑦	ホーム担任が、卒業後の進路に対する個々の生徒の思いや情報が把握できる面談シートを活用し、個人面談を適時適切に行うよう努め、進路意識の向上と進路実現を目指す。	進路指導課 各学年	個人面談が進路意識の深まりや進路学習に効果があつたとする生徒を増やすため、面談を質・量ともに充実させ、生徒の学習状況・家庭状況を的確に把握し、進路決定や悩みの解消に努める必要がある。	【満足度指標】 個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に役立っている。	個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に効果があつたとする生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	生徒調査 （7月実施） A(70.1)+B(16.6) =86.7% 達成度：A	前年度同時期は78.5%であり、効果ありという回答が8.2ポイント増加した。これは、各担任が面談において、生徒が進路意識を持続させる指導を徹底した成果である。今後も継続して指導していく。
		⑧	進路ガイダンス、模擬試験、補習、小論文、面接指導などの系統的・段階的な取組を実施し、生徒ひとりひとりの進路実現を目指す。	進路指導課 各学年	昨年度は、96%の生徒が希望通りの進学あるいは就職の進路実現を果たした。生徒ひとりひとりの進路志望が達成されるよう、きめ細かい指導を継続する必要がある。	【成果指標】 生徒の進路実現率が100%になる。	生徒の進路実現率が A：100% B：97%以上 C：95%以上 D：95%未満	達成度がC、Dの場合、指導法の改善に努める。	12月・年度末に集計（進路指導課）

重点目標		具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	中間評価	
2	自主自律の精神を持った社会人としての資質・能力を身に付けさせるために、基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努めるとともに、挨拶の励行などのマナーやコミュニケーション能力を養う取り組みを実践する。	①	登下校指導を行い、教師が積極的に挨拶を交わし、全校挙げて生徒によるあいさつ運動の充実を図るとともに、身だしなみ（端正な制服の着こなしと頭髪）を守ることによって、社会人の一員としての自覚を促す。	生徒指導課 各学年	自ら進んで挨拶ができると答えた生徒の割合は80.0%。挨拶運動等により、挨拶に対する意識が高まった。服装・頭髪がきちんとしていると答えた生徒の割合は83.2%。毎月実施の頭髪検査の不合格者数も減少傾向にあり、規範意識は高まっているが、指導の継続が必要である。	【成果指標】 挨拶の励行や身だしなみがきちんとしている。	生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしていると答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：75% 未満	生徒調査（7月） 挨拶 A(33.1) + B(49.7) = 82.8% 達成度：C 生徒調査（7月） A(41.4) + B(45.2) = 86.6% 達成度：B	自ら進んで挨拶ができると答えた生徒は、昨年度より2.8ポイント増加。服装・頭髪がきちんとしていると答えた生徒は、昨年度より3.4ポイント増加。毎月実施の頭髪検査の不合格者数も減少傾向にある。
		②	全教職員が協働して、遅刻ゼロ運動を進める。 ・各学年の1日の平均遅刻人数を毎月集計する。 ・遅刻の多い生徒には、個別面談を行い、生活の見直しや改善につなげる。	生徒指導課 各学年	昨年度の1日あたりの遅刻者数は、 1年生 1.44人 2年生 1.81人 3年生 0.72人 であった。遅刻ゼロを目指して、継続指導する必要がある。	【成果指標】 1日あたりの遅刻者数が減少している。	1日の平均遅刻者数指標 1 学年 2 人以内、2 学年 2 人以内、3 学年 1 人以内 1日の平均遅刻者数の達成率が A：各学年とも目標を達成した B：2つの学年が達成した C：1つの学年が達成した D：全学年が達成できなかった	学年毎の1日あたり遅刻者数 1年生 0.73人 2年生 2.06人 3年生 1.24人 達成度：C	別室登校している生徒や別室登校とまではいかなくとも教室に入りづらい生徒がいるため、数字的には変化がみえないように見えるが、本人の不注意による遅刻は減少している。本人の不注意による遅刻は、1年生5件、2年生8件、3年生4件。
		③	入学式後面談や面談週間（6・10月）を通じたきめ細かな面談と、スクールカウンセラー等との連携を通して、生徒の学校生活等の支援体制の充実を図る。	厚生課 各学年	さまざまな悩みを抱える生徒に対して、スクールカウンセラー、地域サポート教員等との連携を一層充実させ、積極的な支援が必要である。	【満足度指標】 生徒が校内の支援体制に満足している。	生徒の悩みに先生が相談に応じていると答えた生徒の割合が A：85% 以上 B：75% 以上 C：65% 以上 D：65% 未満	生徒調査（7月） 学校生活の悩みへの肯定的割合 A(50.3)+B(32.5) = 82.5% 達成度 B	学校生活の悩みに対しては、82.5%（前年度比+3.9ポイント）の生徒が肯定的な評価をしている。スクールカウンセラーとの連携をより一層密にし、相談体制を充実させていきたい。
3		①	生徒会執行部や各種委員会、学級において、生徒一人ひとりが自らの役割を理解し、積極的に活動できるよう指導する。	生徒会課 各学年	各種委員会や学級などにおける生徒の仕事内容に対して、教員間で十分共通理解を図り、的確な指導をする必要がある。	【満足度指標】 所属する委員会や係の役割を理解し、活動に取り組むことができる。	所属する係の仕事を理解し、活動することができたという生徒の割合が、 A：85% 以上 B：75% 以上 C：65% 以上 D：65% 未満	生徒調査 （7月実施） A(51.6)+B(36.9) = 88.5% 達成度 A	昨年同期より、8.1ポイント増加した。 夏季休業明けには文化祭も控えており、一人ひとりが責任感を持ち、協働する意識をもてるように取り組みを工夫していきたい。

重点目標		具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	中間評価	
3	宝達高生としての愛校心や自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨くために、部活動や特別活動、地域貢献活動の充実と活性化を図る。	②	生徒会と連携し、平常清掃の大切さを呼びかけ、積極的な参加を促す。また、環境整備委員等の働きかけによる美化コンクールを通じ、環境美化への自主性を高める。	生徒会課 厚生課	昨年度の肯定的評価は80.7%であった。環境整備委員による清掃時の呼びかけや掃除指導の機会を増やし、各生徒がより清掃活動の必要性を理解し、自主的に取り組めるよう働きかけていきたい。	【成果指標】 役割分担をし、協力して清掃活動に取り組む事ができている。	役割分担をし、協力して清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査 (7月実施) A(51.6)+B(36.9) =88.5% 達成度B	昨年度同期より1.4ポイント減少した。環境整備委員との連携をより一層強め、美化コンクールや大掃除などを通して、校内の美化に対する意識の高揚に努めたい。
		③	心と身体の健康維持のために年間7回実施する「生活自己チェックカード」の結果から、生徒ひとりひとりの生活状況やいじめ等の悩みを的確に把握し生徒の指導に活かす。	厚生課 生徒指導課	生活自己チェックカードの結果は職員会議等で共有されているが、全体の集計結果の把握が中心で、個々の指導に活かされているかを確認する機会が少なかった。	【努力指標】 生活自己チェックカードの結果を面談や生徒指導に十分に活用する。	生活自己チェックカードの結果が面談や生徒指導に十分に役立ったと答えた教員の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	教員調査 (7月実施) A(33.3)+B(66.7) =100% 達成度A	肯定的な評価が100%を占めており、生活自己チェックカードの有用性が確認できた。今後も計画通りに調査、集計、フィードバックを実施し、生徒個々の指導の一助としたい。
		④	部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に加入し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。	生徒会課 各学年	年度当初は全員部活動に加入するが、後半には部活動に消極的な生徒が増えてくる。年度途中で退部してしまう生徒への指導に努めることにより、積極的な部活動への加入の取組を促す必要がある。	【成果指標】 継続的に部活動に取り組む姿勢を培う指導ができている。	部活動に加入し年間を通して継続的に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	生徒調査 (7月実施) A(70.1)+B(16.6) =86.7% 達成度B	昨年同期より、4.6ポイント増加した。 退部や転部をした生徒はほとんどみられなかったものの、顧問に無断で欠席する生徒も一部みられ、顧問と担任が連携して指導していく必要があると思われる。
		⑤	生徒会や部単位での活動を主として、宝達・数浪・免田駅周辺の清掃活動をはじめ、地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。	生徒会課 各学年	生徒は、地域への貢献活動やボランティア活動に対する意識が高いとは言えず、一部の生徒の活動になっている。年々活動は盛んになりつつあるが、ボランティア活動に対する地域貢献の意識の高揚を図ることが求められる。	【成果指標】 地域への貢献活動やボランティア活動に取り組む姿勢を培う指導ができている。	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	生徒調査 (7月実施) A(43.3)+B(28.0) =71.3% 達成度B	昨年同期より、0.1ポイント減少したものの、ほぼ同じ推移を保っている。 駅舎清掃は部活動を中心に活動に行っているが、自ら積極的にボランティア活動に取り組もうとする意識はまだ低い。今後も意識付けをさせていきたい。

重点目標		具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	中間評価	
4	学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信するとともに、近隣の小・中学校との連携を密にし、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	①	学校からの配付物を保護者に渡す指導を今後も徹底すると同時に、メール配信システムを有効に活用することで、配付物を含めた学校情報を確実に保護者に届ける。	総務課 各学年	配付物を保護者に届けた生徒の割合と、学校情報を知ることができた保護者の割合は、それぞれ70%後半であった。一昨年度より導入した保護者・生徒によるメール配信登録者割合を更に高めて活用し、開かれた学校づくりに積極的に取り組みたい。	【成果指標】 学校情報を保護者にきちんと届けさせることができる。	配付物を保護者に届けた生徒の割合と、学校情報を知ることができた保護者の割合は、それぞれが A：85% 以上 B：80% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	生徒調査 (7月実施) A(49.7)+B(34.4) =84.1% 達成度B 保護者調査 (7月実施) A(34.7)+B(51.7) =86.4% 達成度A	配付物を保護者に届けた生徒の割合が昨年度7月と比較して、86.3%→84.1%と下降した。昨年度12月74.8%と比較した場合、現2・3年生においては改善傾向にあり、今後は生徒への連絡徹底だけではなく、保護者へのメール配信で連絡し、着実に配付物が保護者に届くようにする。 学校情報を知ることができた保護者の割合が86.5%→86.4%とはほぼ同じで、昨年度同様にメールが有効に活用されていると思われる。
		②	HPの更新を通して、生徒、保護者および地域住民へ速やかに情報を発信するとともに、HPの閲覧を推進し、本校の良さを理解してもらう。	総務課 各学年	本校のHPの閲覧回数は月平均300回程であるが、より多くの生徒、保護者へ迅速に情報を提供する必要がある。また、地域住民、特に中学生に情報を発信し、日頃から本校への理解を深めてもらえるよう取り組みたい。	【成果指標】 より多くの生徒、保護者および地域住民が継続して本校のHPを閲覧するような働きかけができている。	HPの閲覧回数が月平均で A：500回以上 B：400回以上 C：300回以上 D：300回未満	HP閲覧回数 (4月～7月) 月平均：約1,385回 達成度A	昨年度(6月～3月)約460回と比較すると、本年度の閲覧回数は顕著に増加している。本年度は、学校便り等の配付物、日々の活動状況等を随時HPにアップし、常に最新情報を記載するとともに、生徒・保護者へのメール配信で本校HPの月別行事日程表更新等を知らせたことによると考えられる。今後もきめ細かな情報発信に取り組んでいきたい。